

令和2年9月29日

西村委員

私からは、県営水道のPRの取組について伺います。

昨年の第2回定例会の本会議での一般質問で、我が会派の鈴木ひでし議員から、海外の水道事業者が観光スポットなどにウオーターサーバーを設置しているという例を挙げて、県営水道における効果的なPRとプラスチックごみの削減について質問しました。その後、企業庁は県営水道の新たなPRの展開として、ウオーターサーバーの設置に取り組んでいると承知をしております。また、この取組はSDGsの視点からも推進していくべき取組であると考えますので、質問します。

まず、県営水道では水道水のおいしさや安全性をPRする取組として、ペットボトル水の神奈川のおいしい水 森のハーモニーを活用されておりますが、今後このペットボトル水についてはどうしていこうとされていますか。

経営課長

ペットボトル水は、県営水道の広報用として平成16年度から製造を開始し、各種のイベントで配布するなど水道のPRをしてまいりました。しかしながら、ペットボトル水では水道水そのもののおいしさを実感してもらうには十分でないこと、そして近年、世界的にプラスチックごみの海洋汚染が問題となり、本県が推進するSDGsの取組であるかながわプラごみゼロ宣言を企業庁として具体的に進めていくため、ペットボトル水によるPRからウオーターサーバーの設置によるPRへと取組をシフトさせることとしました。このため、ペットボトル水については令和2年度をもって製造を終了することとしています。

西村委員

このペットボトルは、全国の水道事業者の方々がたくさん進出されておなじみになりましたが、神奈川県は次のステップに行こうという決意に至ったのではないかと思います。

かながわプラごみゼロ宣言を進めるため、ペットボトル水からウオーターサーバーの設置へとシフトをしていきますが、改めてウオーターサーバー設置の取組の概要について伺います。

経営課長

この取組は、給水区域の市町と連携してPR効果が高い観光地など、多くの人が訪れる場所、水道直結式ウオーターサーバーを設置して、水道水のおいしさや安全性を実感していただくとともに、プラごみ削減につなげていくものです。令和元年度には鎌倉市と連携し、鎌倉駅西口駅前広場に第1号となる水道直結式ウオーターサーバーを設置しました。また、こうした常設するもののほかに、可搬式のウオーターサーバーを導入し、企業庁が実施する各種イベントにおいて活用するほか、県や市町村等のイベントにも貸し出すことを考えています。

西村委員

1号機の設置場所として、鎌倉市を選定した理由について教えてください。

経営課長

企業庁ではウオーターサーバー設置によるPR効果のより高い場所ということで、県内有数の観光地であり、国内外から観光客が多く訪れる湘南方面を中心に、市町の意向を確認しながら適地を探しておりました。そうした中で、鎌倉市ではSDGsの取組としてかまくらプラごみゼロ宣言の取組強化のため、マイボトル利用促進の呼びかけや、市内の公共施設を中心に給水スポットを設置する計画をしていたことから、企業庁と鎌倉市の施策が合致し設置に至ったものです。

西村委員

ウオーターサーバーによる広報では、これまでの広報とは効果にどのような違いがあると考えていますか。

経営課長

ウオーターサーバーは水道管から直接給水し、冷水機能により冷えた水道水を提供することができます。ペットボトル水とは異なり、水道水そのもののおいしさを実感していただけます。

さらに、持参したマイボトルにウオーターサーバーの水を入れていただくことでプラごみの削減につながるほか、ウオーターサーバーの外装を設置場所の環境に合ったデザインや環境への貢献をイメージするメッセージ性のあるデザインとすることで、SDGsの取組を効果的にPRできるものと考えております。

西村委員

今デザインの話が出ましたが、先日の令和2年9月15日に鎌倉市で、ウオーターステーションという言い方をしていました。デザインをされた方の絵の感謝状の贈呈式に私も参加しました。企業庁長もお見えでいらっしゃいましたし、鎌倉市の副市長も御出席をされていた。そしてまた、デザインをされたのが、学校法人岩崎学園の横浜デジタルアーツ専門学校の舟木氏というすてきなお嬢様で、本当に若々しい、そしておいしそうに見えるデザインをしてくれたと思えました。

また、コロナ禍ではありましたが、配慮いただいて私も試飲しましたが、はっきり言って冷たくておいしかったです。ペットボトルの場合は冷やさないで冷たくないですが、ウオーターサーバーは冷たい水が飲めることで、多くの方も集まってこられて期待されていると実感しました。

メッセージ性のあるデザインによるPR効果、今後具体的にどのような取組をしていくのか、そしてまた、今回のデザインについてもお考えや御感想などおありでしたら教えていただきたい。

経営課長

今回設置したウオーターサーバーの正面デザインは、本県と連携と協力に関する包括協定を締結している学校法人岩崎学園に、水道水のおいしさ、安全性及び環境への貢献をテーマとしたデザインを依頼し、御協力をいただいた42名の学生の作品の中から採用したものです。採用したデザインについては、設置場所である鎌倉市の景観条例等の施策を反映させながら、水、川、ダムを表現したすっきりしたデザインで、水のおいしさやクリーンな環境についてのメッ

セージを伝えることができるものと考えております。

また、側面にはSDGsの17のゴールのアイコン、神奈川県及び鎌倉市それぞれのプラゴミゼロ宣言のロゴを採用し、正面のデザインとの組み合わせで、これらの取組を広く発信できるものと考えております。

西村委員

それでは、企業庁では今後この取組をどのように展開していこうと考えているのか、教えてください。

経営課長

現在、新型コロナウイルス感染症対策に全庁的に対応をしております。このことから、ウオーターサーバーに係る取組は見合わせていますが、状況を見極めながら設置場所の拡大を進めていきたいと考えております。

こうした中でも、来年度は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が予定されておりますので、ウオーターサーバーを関連イベント等で活用していけるよう調整してまいります。

企業庁としては、今後ともより多くの方に水道水のおいしさや安全性を実感していただけるように、プラゴミ削減に向けて取組を進めてまいります。

西村委員

本会議での一般質問の御答弁のときにも、具体的に鎌倉市と併せて藤沢市という名前が上がりました。今、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会という言葉も出てきた。藤沢市もそのターゲットの中に入っているのでしょうか。可能性としてはどうでしょうか。

経営課長

今関連する部局と調整しておりますが、そちらの方向で行えればと考えています。

西村委員

多くの方々がお見えになりますので、今さら企業庁の皆様にはありませんが、世界中で水道が普及している国は40か国程度で、直接水道水が飲める国は大体15か国くらいではないかということで、世界から見たら本当にまれなことだそうです。

SDGsとしての取組を挙げると、コロナ禍でSDGsと考えると、飲み水というだけではなく、もう一方の安全性、手が洗えることのアピールも海外に向けては行っていけると思います。

残念なことに、県のホームページ、SDGsアクションで新型コロナウイルス感染症を乗り越えようという中には、企業庁の絡みが少なく、この水道のマークが少ない。もっと胸を張っていただいて、手洗い設備が近くにない人々が全世界では30億人いる中で、安全な水とトイレを世界中に発信できる東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機会に、ウオーターサーバーがあり、神奈川県の水が安全でおいしいということを発信していただくことはとても重要だと思います。どうぞ、胸を張って前向きに展開していただけますようお願いいたします。

もう一つ、先ほど他党派からも質問が出ましたので重ならないように簡単に、これからの時代に相応しい水道システムの構築について伺います。

そもそも、水道システムとは何かを、確認の意味でもう一度教えていただけますか。

計画課長

一般的に水道システムは取水から浄水、送配水を経て水道使用者に水道水を届けるための一連の流れを総じて水道システムと呼んでおります。この言葉の中には、施設や設備などのハード的な要素だけではなく、水道水をつくり、送り届けるための運転管理や施設の維持管理などのソフト的な面も含まれておりますが、今回の検討においては、もう少し幅広に捉えて、水道に関わる水源や水利権、水道事業者の枠にとらわれない一体的な運用なども水道システムを構成する要素として捉えています。

西村委員

平成19年に15か所あった浄水場が、現在4か所廃止し11か所まで削減しています。

5水道事業者では、どのような共通認識の下、廃止してきたのかを確認させていただきます。

計画課長

平成22年8月にまとめられた神奈川県内水道事業検討委員会報告の基本的な方向性として、施設の維持管理、運営の効率化と更新費用の削減を図るため、浄水場の更新等に合わせて統廃合によるダウンサイジングを実施するとしています。

この共通認識の下、各事業者が独自に廃止できる浄水場については、それぞれの計画に基づき更新時期に合わせて廃止しています。

西村委員

また、将来的に浄水場は8か所まで統廃合を進めると、これが最適な施設配置ということですが、どのような観点から最適な施設配置と言えるのか伺います。

計画課長

基本的には、平成22年8月の神奈川県内水道事業検討委員会報告に示された基本的な方向性及びその考え方を踏襲しながらも、この間の社会情勢や事業環境の変化を踏まえて、さらに検討を深め今回の最適な施設配置を示したもので、今年の3月に5水道事業者が確認した再構築に取り組む方向性に基づいたものとなっています。減少する水需要に見合った適切な規模の施設とするためには、大胆なダウンサイジングを進める必要があります。エネルギー消費、災害リスクの低減の観点から、上流取水を優先するため、下流に位置し更新時期を迎える浄水場は廃止することとしました。

また、ダウンサイジングによって浄水場が減ることになりますが、災害、事故時のバックアップを強化する観点から、相模川、酒匂川の2水系から取水し、企業庁、横浜市、川崎市、横須賀市の各水道事業者への用水供給が可能な神奈川県内広域水道企業団の浄水場を活用することとしました。

西村委員

若干重なってきますが、実施年度について、当初は平成22年から平成30年という長いスパンの中で終わってしまうのかという議論がありましたが、それ

だけ長いスパンがある中で、今の段階で確認をしておく必要性はどのような必要性があるのかを伺います。

計画課長

まず、将来の一つの目安としては、令和 22 年が目安となります。20 年先になりますが、5 水道事業者全体で最適な施設配置を進めていくためには、浄水場や連絡管などの施設整備が必要となってまいります。しかし、これらの施設整備は規模も大きくなり、工事完成までに長い期間がかかることから、今後それぞれの水道事業者が水道施設の再構築について事業計画に反映させ計画的に実施できるように、将来の姿を共有するために今の段階で確認したものです。

西村委員

少し方向性が変わりますが、水道システムについてなされていますが、そもそも安全な水を安定して供給するために、5 水道事業者でずっと続けています。県民からすると、そこにプラス安全な水を安定して供給する、料金の面での安定と安心をとという思いがあると思います。

そこで気になることが、ここに来て横浜市の水道料金の値上げの話が、年が変わってずっと言われています。横浜市水道局のことを伺うことも変な話ですが、県民からすると、では県営水道はどうかという直接的な御質問と言いますか、同じ水を使っているのに大丈夫なのかという不安を持っている方もいますが、現段階で県営水道の水道料金を見直すことや考えるとといった、何か増えることはあるのでしょうか。

経営課長

県営水道事業において、水道料金の値上げ等、具体的に検討していることは現時点においてはありません。しかしながら、これからの時代は人口減少社会の進展の中において水需要も減少していくことが見込まれる一方で、電子マネーの普及拡大など、水道事業を巡る状況は大きく変化しております。

そこで、現在、企業庁では外部の有識者等で構成する神奈川県営水道懇話会を設置して、委員の皆様これから時代に相応しい水道料金や、利用者サービスの在り方などについて広く検討いただいています。

西村委員

今御答弁いただいたように、水需要の減少や更新需要の増大は、これから必ず訪れる課題であります。着実に歩みを止めることなく取組を進めていただき、安全な水を安定して供給、極力料金でも御努力をいただけますようお願いを申し上げて、質問を終わります。